

平成30年度カンキツ青かび病菌、緑かび病菌の薬剤耐性菌検定成績書

長崎県病害虫防除所

1. 目的

長崎県内におけるカンキツ青かび病、緑かび病の各種薬剤に対する感受性を明らかにし、防除対策の参考にする。

2. 検定概要

(1) 採集時期：平成30年12月中旬

(2) 採集場所及び方法

ア. 採集場所：J A長崎せいひ伊木力みかん選果場、J A長崎せいひ小迎みかん選果場、  
J Aながさき県央中部集出荷施設、J A島原雲仙瑞穂選果場、  
J A島原雲仙北有馬みかん選果場、J Aながさき西海みかん生産者

イ. 方法：県内各選果場及び任意の生産者において、温州みかんの発病果実を1地点当たり5~10個検定に供した。

(3) 検定薬剤及び方法

ア. 供試薬剤：トップジンM 水和剤（チオファネートメチル）  
350ppm（実用濃度：2,000倍希釈相当）、100ppm（7,000倍希釈相当）  
ベフラン液剤25（イミノクタジン酢酸塩）  
125ppm（実用濃度：2,000倍希釈相当）

イ. 検定方法：採集した果実から病原菌をPDA培地に分離し、検定薬剤の所定濃度を含むPDA平板培地に移植し、28℃、72h培養した後の菌糸伸長の有無により判定した。

3. 結果

トップジンM水和剤を加用したPDA培地では、実用濃度である350ppmでは全ての菌株で菌糸伸張は認められなかった。また、100ppmでは50菌株中2菌株（4%）で菌糸伸長が認められた。

ベフラン液剤25を加用したPDA培地では、全ての菌株で菌糸伸長は認められなかった。

4. 考察

トップジンM水和剤、ベフラン液剤25は実用濃度で高い薬剤効果を示し、薬剤感受性の低下は認められなかった。また、生産現場における青かび病、緑かび病の薬剤防除ではトップジンM水和剤とベフラン液剤25の混用散布を行っており、本病に対する防除効果は実用上問題ないと考えられる。

表 カンキツ青かび病菌、緑かび病菌の薬剤感受性検定結果

採集場所	調査 菌株数	菌糸伸長菌株数		
		トップジンM水和剤		ベフラン液剤
		350ppm (実用濃度)	100ppm	125ppm (実用濃度)
伊木力選果場	6	0	0	0
小迎選果場	10	0	0	0
県央中部出荷施設	10	0	0	0
瑞穂選果場	5	0	0	0
北有馬選果場	9	0	0	0
J Aながさき西海生産者	10	0	2	0
計	50	0	2	0